

神代神社の神主。皇學に志篤く、本居・平田二氏の著書を集め、文化八年吉田家に入門して神道を研究し、又田中躬之に國學和歌を學び、敬神の本意を衆に示さん爲、金澤に於いて神道の本源等を講釋し、弘化元年寺社奉行から銀二枚を下賜せられた。嘉永元年六月又能登四郡神主の觸頭を命ぜられ、次いで和泉守に叙爵したが、文久二年二月廿五日六十三歳で歿した。著書に葛の屋集三卷・能登國神異例・庸夫俚談等がある。

ミヅノヨシナリ 水野可成 通稱内匠。父惣左衛門は織田信長の臣であつた。内匠前田利長に仕へ、祿漸く増して三千七百石に至つた。子孫世々藩に仕へる。

ミヅノヨシヒテ 水野好榮 ↓ミヅノゲン
水野源次。
ミヅノヨシフサ 水野好房 ↓ミヅノゲン
水野源六。

ミツバヤシコウ ミツ林郷 三宮古記に上林郷・中林郷・下林郷の名が見える。上林・中林・下林は何れも石川郡林郷内の村であるが、郷とも呼んだと見える。又それを總稱して三林郷とも、三林とも呼んだ。

ミツバヤシセンシロウ 三林善四郎 越登賀三州志故墟考に、天正の初から三林善四郎が石川郡林郷内の上林・中林・下林を領し、三林氏を稱して賊魁となつたが、天正八年閏三月柴田勝家が加賀に侵入した時滅されたといふ。三壘記に善四郎を善吉に作るのは非であらう。

ミツバヤマ 水葉山 石川郡見定の部落から西方に當る山。高さ九〇〇米。地質第三紀層。

ミツハラサエモン 水原左衛門 ミツラ 前田利長に仕へて千二百二十石を受けた。慶長十九年利長の薨後、左衛門は前田長種・奥村榮頼と共に江戸及び駿府に赴きて利常相續の台命を受け、大坂の役には足輕大將として従軍した。寛永二年歿。子孫世々藩に仕へる。

ミツハラシゲヤス 水原重保 ミツラ 通稱清左衛門。左衛門の甥で、その養子となつたもの。祿加増とも七百五十石。會所奉行・御先簡頭・御小々將・御馬廻頭に歴任し、貞享四年致仕して知閑と號し、元祿八年歿した。

ミツハラヤスノブ 水原保延 ミツラ 通稱清五郎。實は人持組品川主膳の三子であつたが、文化八年馬廻組水原孫太夫景福の嗣となり、翌年その家を襲ぎ、祿九百五十石を受け、十三年保延大小將組に編せられ、文政七年表小將、天保元年同横目となり、弘化三年馬廻組頭に進み、金澤町奉行を兼ね、翌年町奉行を罷めて御算用場奉行に轉じ、年寄長連弘の改革に従つた時、之を助けて財政整理の任に當つたが、安政二年黒羽織黨の失脚に際してその職を罷められた。然るに三年亦御馬廻頭に復し、五年明倫堂督學に補せられ、萬延元年富山藩の爲に財政整理の任に當り、文久二年歸藩して御算用場奉行となるに及んで勢力頗る隆々たるものあり、三年産物方を新設し、明治元年四月退老して清幽と稱したが、藩侯慶寧特にその功を賞し、二百石を賜うて養老の封とした。

ミツハル 光治 加賀の刀工。加州金澤住伊賀守光治と切る。寛永頃。

ミツヒラ 光平 ↓ミツクニ 光國。

ミツブチ 水淵 石川郡岸川庄に屬する部落。

ミツホ 瑞福 鳳至郡山田郷に屬する八、田・院内・西安寺は、明治中併合して瑞福と稱することにした。この地大神社(舊院内)の境内に大公孫樹があり、樹高二四米、胸高周圍七米三を測る。

ミツボキガキ 三壘開番 又三壘記ともいふ。宰領足輕山田四郎右衛門の寶永年間に於ける編纂で、鎌倉・室町時代の簡單な記述から初り、信長・秀吉・家康と漸次詳密の度を増し、遂に殆ど加賀藩のみの記事となり、利常薨去の時を以て撰纂せられてゐる。原著は十四卷であるが、流布本は後人の加除があつて二十二卷となつてゐる。

ミツマタ 三保 江沼郡極樂寺内の小宇。ミツマタノチン 三叉亭 能美郡小松の西梯川に今江湯の水の注ぐ所は地形三叉狀を爲してゐる。寛永十九年前田利常こゝに亭樹を構へ、以て偃息の所とした。松永昌三の三叉亭子應教詩に、『幸蒙恩許登高樹。加國山川置一望。漁艇迎晴周設網。文筵鎮景各傾觴。峰遙天澗雲夢澤。物傑地靈崑玉岡。湖上麗光看不厭。前身何愧賀知章。』とあり、この地今御亭田といつてゐる。

ミツモチヤマ 水持山 鳳至郡牛尾の部落から南方に近い山。高さ二二三米。地質第三紀層。

ミツモリ 水守 ミト 鳳至郡大屋庄に屬する部落。能登誌に『水守村は輪島の舊地にて、昔は此所を輪島と呼びて、奥郡の府中に於て、此邊に數千軒ありしかど、兵亂と水難とに分散すといひ傳へり。其頃は鎌倉より目代下りてあり。其屋敷跡、館の腰とて小伊勢村

領に在り。』と記する。

ミツヤ 三ッ屋 江沼郡浦原内の小宇。ミツヤ 三ッ屋 能美郡山上郷に屬する部落。

ミツヤ 三ッ屋 石川郡被月庄に屬する部落。龜尾記に、この村に大榎がある。蓮如上人廻國のときこゝに休息したとて道場があり、楠部屋金五郎の建てた碑もあると記する。

ミツヤ 三ッ屋 河北郡小坂の内の小宇。ミツヤ 三ッ屋 羽咋郡田院内太田宮永保に屬する部落。

ミツヤ 三ッ谷 ↓ミツタニ 三ッ谷(能美、白山下)ミツヤ 三ッ谷 能美郡輕海郷に屬する部落。郷村名義抄に、この奥に嶺の谷・淺の谷・あべの谷があるから村名が起つたとある。もと三ッ谷と書いたが、元祿十五年十二月二日假字を省いて三谷と書くべき命があつた。

ミツヤウチ 密谷氏 能美郡尾添に於ける最舊家として、三津屋と言つたのを、明治以降滑谷を氏としたのである。もと賀代坊に在つた文書等は、この家に傳はつて居る。

ミツヤコエ 三ッ谷越 能美郡出合から三ッ谷に至る間の峠。

ミツヤジヨウ 三ッ谷城 能美郡三ッ谷に在つた。越登賀三州志故墟考に、天正三年織田信長が三谷堡を攻めたこと七國志に見え、その後岸田常徳寺こゝに住したが、前田利長に逐はれて宇川村に去つたことは三壘記に見えるところである。しかし、天正三年に信長の加賀に入つたこともなく、また利長が常徳寺を討つたことがあるとも見えぬ。

ミツヤノ 三ッ屋野 能美郡山上郷に屬す